

かっこいい庭を考える①

高崎 康隆

高崎設計室有限会社 代表取締役・石組師

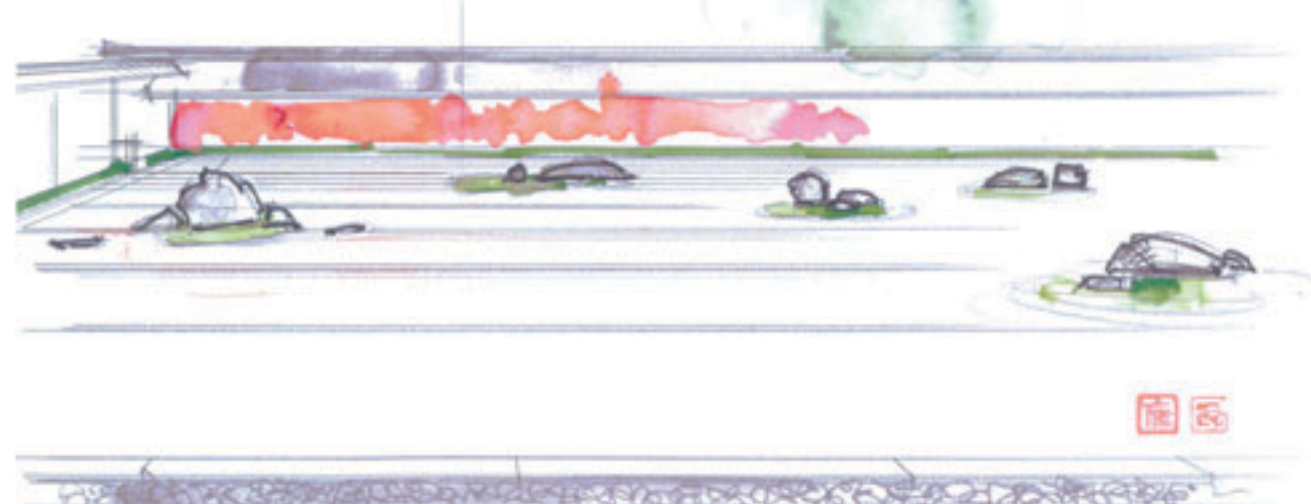


シャープな線の表現を試みた竹垣(西蓮寺 東京都北区)

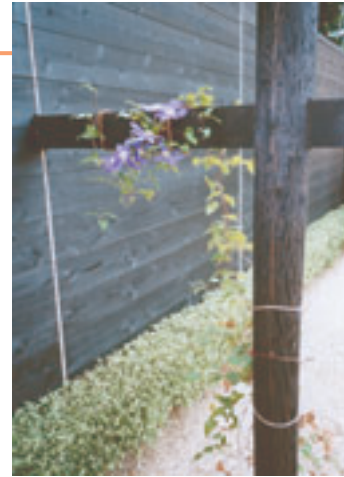
高崎 康隆氏

東京農大卒、京都大学農学部林学科造園学教室研究員・総合庭園研究室勤務を経て国際事業団派遣専門家として、北イエメン都市省へ
西洋環境開発環境形成部課長在職後、高崎設計室有限会社を設立
英国王室園芸協会日本支部専門委員 日本造園学会会員
千葉大学・京都造形芸術大学非常勤講師

著書 主婦と生活社「自分でつくるわが家の洋風ガーデン」
「スモールガーデン」への執筆 他



龍安寺石庭の印象



黒板塀にクレマチス(T邸 茨城県龍ヶ崎市)

伝統庭園はかっこいい

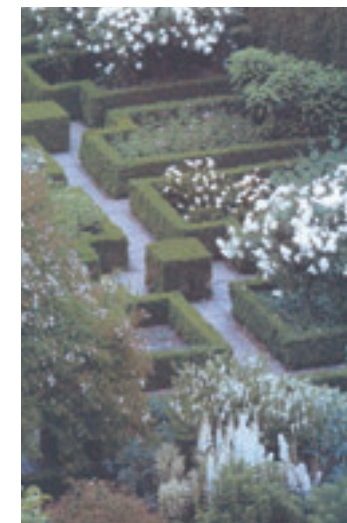
私が庭に関心を持った中学時代、そして庭づくりを志した高校時代に写真で見た各地の日本庭園に対する感想は「かっこいい」というものでした。高校の修学旅行文集には龍安寺庭園について、その新鮮な色の世界に驚いたこと、配石の謎について考えたことを書きました。庭石と白砂、土塀の白壁に瓦というモノトーンの空間を想像していました。ところが、庭を見た瞬間に「うわーっ、なんだこの色は。こんな色が日本にあったのか」とびっくりしたのです。文庫本の庭園写真集を買って来て、日本全国のかっこいい石組にあこがれ、大学時代は京都・奈良・山梨などの庭園を見て回りました。

大学を卒業してからは京都に下宿して、毎日毎日庭を見て過ごすという大切な一年間を経験しました。また、福井県や山陰・山陽の庭園をみてまわり、戦国の武将が作った豪快で厳しく、個性溢れる庭に感動しました。そして自分でも「かっこいい庭」を作りたいと動き出しました。

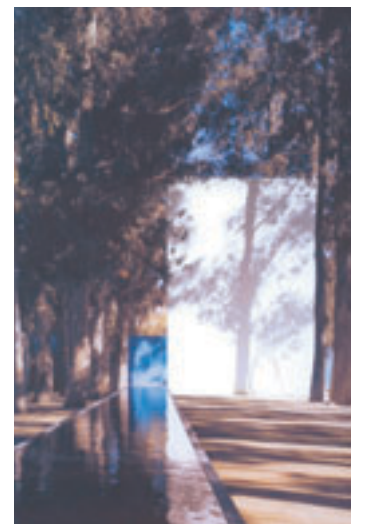
海外の庭の「かっこいい」

イングリッシュガーデンの元になっているものは、19世紀にプラントハンターたちが世界中から集めた珍しい植物のコレクション群です。それらをいかに育て、いかに見せるか...その試行の結果が、さまざまな英国庭園のスタイルを生み出しました。温室、宿根ボーダー、ローズガーデン、ウッドランドガーデン(*1)、コニファーガーデン、ウォールガーデン(*2)、ウォールドガーデン(*3)、ウォーターガーデン、これらの名前を考えればそれぞれが植物栽培のためのスタイルであることが判ります。それらのなかにあってシンシングハーストのホワイトガーデン(写真1)は、いかに見せるかをテーマにしたスタイルといえます。とかく表現が豊饒になりがちな英国庭園のなかで、白と緑の色の世界はとて抑制が利いていてハッとさせられるもので、これはコンセプトが「かっこいい」といえるでしょう。メキシコの建築家ルイスバラガンの創り出した空間(写真2)もかっこいい。その魅力は、メキシコの風土に似合って、つきぬけた感のある色と直線が作り出す、気持ちの良さそうな日陰とのコントラストでしょうか。

(*1) ツツジ・シャクナゲをテーマ植物にした森林型庭園
(*2) ツル植物やエスパリエをテーマ植物にして、それを壁に合わせた庭
(*3) バラと草花をテーマ植物にした、堀で囲まれた庭園



(写真1)英国でもっとも美しい庭園だと言われているケント州の「シンシングハースト・キャッスル・ガーデン」



(写真2)ルイスバラガンの作品

INDEX

- かっこいい庭を考える -1.....1~3
- 第20回エクステリア施工コンテスト入賞作品発表.....4~8
- 設計ノート.....9~12
- フォーカス 新世代シリーズ.....12
- 2003年 秋の主な新商品.....13
- Topics "exterior world".....14
- 御庭会通信.....裏表紙
- 御庭番スタッフ紹介.....裏表紙

表紙:久保水穂氏

1968年生まれ、インテリアデザイン事務所、建築パース事務所を経て現在、フリーイラストレーター
ポローニャブックフェア会場デザイン、第2回データハウスEXPO'97(ビッグサイト)日本テクノグラフィック株式会社ブースデザイン、雑誌『ぴあ』夏休み映画特集ジュラシックパークイメージイラストなどを手がける。